



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部



発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 第21回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会/
第28回四国地域医学研究会 合同学術集会

高知医療センター 澤田 努

～～～ 開催のご案内 ～～～

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種による終息が期待されていますが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。本学術集会の開催につきまして検討しました結果、本年度は完全オンラインで開催する事と致しました。四国の交通網は未整備で、距離の割には移動に時間が掛かります。また、経済基盤の弱い小さな学会では、会場費などの負担も問題になる場合があります。完全オンラインですと、これらの課題を克服可能かと存じます。皆様に高知にお越しいただき、直接お会いする事ができないのは残念ですが、コロナ禍の現状をチャンスと捉え、新たなチャレンジとして開催できればと考えております。そして、来年度以降の開催方法の選択肢の一つに加えて頂ければ幸いです。

今回の合同学術集会では、「コロナ禍での総合診療」をメインテーマとして、各分野で新型コロナウイルス感染症に関わってこられた先生方によるシンポジウムを開催いたします。また、「総合診療医にとっての HIV 感染症」をテーマとしまして、会長講演を予定しています。2日目には恒例の専攻医ポートフォリオ発表会も企画しております。

オンライン開催ですので、職場から移動することなく参加が可能となります。多数の皆さまのご参加をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

大会長：高知大学医学部附属病院 武内 世生

【開催日程】

2021年11月27日(土) 14:00～18:30

※四国地域医学研究会総会を13:00～開催予定

2021年11月28日(日) 8:30～12:40

【完全オンラインでの開催】

ログインリンクは後日関係者宛てにお知らせ致します。

【プログラム予定】

【第1日目】11月27日(土)

(13:00～13:30 四国地域医学研究会総会)

13:30～ ログイン受付開始

14:00～14:10 開会式

14:10～15:10 一般演題

15:15～16:15 大会長講演

高知大学医学部 総合診療部：武内 世生 「総合診療医にとっての HIV 感染症」

16:20～18:00 シンポジウム

「討論：討論：with COVID-19 ～コロナ禍での総合診療～」

18:10～18:30 四国ブロック支部総会

【第2日目】11月28日(日)

8:30～10:30 ポートフォリオ発表会

10:40～12:30 一般演題

12:30～12:40 閉会式

【懇親会】

完全オンライン開催のため、懇親会は開催いたしません。

【地方会参加の証明に必要な要件】

地方会参加については以下の2つが揃うことで確認致します。

- ・参加費の振り込みが完了していること
- ・Webへの参加のログ確認(ログインの時に所属と名前とフルネームで記載して下さい)

【会費】学術集会参加費 1000円(*振り込み手数料込み、学生無料)：詳細についてはWebをご参照下さい

【単位】

日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医更新単位

日本プライマリ・ケア連合学会認定薬剤師更新単位

新家庭医療専門医制度のOff the job 更新単位

【参加・演題登録申し込み】・・・以下に示すWebサイト：地方会の情報から申し込みをお願いします

●地方会の情報 URL：<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-shikoku/archive/index.html>

●参加申し込みフォーム (Google フォーム)



<https://forms.gle/WbKo2ix1le2FmZu76>

学術集会の参加申し込み

参加申し込みの締め切りは、令和3年10月30日(木)までと致します。

※電子メールやFAXでの受付は行いません。

【申し込み・問い合わせ先】

合同学術集会事務局

〒781-8555 高知市池2125番地1

高知医療センター総合診療科 澤田 努

TEL 088-837-3000 (代)、E-mail: pc4shikoku@gmail.com

★2 2021年度第1回ポートフォリオ発表会&総合診療セミナー

高知大学医学部家庭医療学講座 福留恵子

2021年2021年8月29日(日)に高知家総合診療専門研修プログラムの主催で、2021年度第1回ポートフォリオ発表会&総合診療セミナーを開催いたしました。

総合診療セミナーは「総合診療の基盤に家庭医療学あり」と題して、岡山家庭医療センター松下明先生を講師にお招きすることができました。松下先生にはポートフォリオ発表会にもご参加いただき、家庭医療学・行動科学の視点からの確かなアドバイスをいただきました。

前半はポートフォリオ発表会です。今回は高知家プログラムの専攻医4名に加えて、大阪医科薬科大学附属病院総合診療プログラム専攻医で現在、くぼかわ病院(高知県四万十町)で研修中の水谷肇先生も参加いただき、ポートフォリオ発表をしてくれました!

最終学年の上田先生、田邊先生、東山先生は、対応の難しい患者さんやそのご家族、複雑性困難事例に取り組んでいること、そこからの学びを発表してくれました。聞き手・読み手に伝わる、という意味では改善点も多少ありましたが、さすがの最終学年で事例に対する実際の取り組みや対応は、この4年間の成長を感じるものでした。はじめてのポートフォリオ作成・発表をしてくれた江端先生は、その真摯な対応や悩みがよく伝わりました。これからの専攻医の学びの中できっと力をつけていってくれるものと、これからが楽しみです。

水谷先生の発表は完成度も高く、積極的な発言もしていただいて高知家プログラムの専攻医にもとても刺激的なものでした。この場を借りて改めて感謝いたします。

後半はいよいよ総合診療セミナーです。松下先生の「なぜ家庭医を志したか?」。これが今までに聞いたことのない理由で、この冒頭部分から一気にお話しにひきこまれてしまいました。



実際の事例をもとに、診察室での初診(産後うつの患者さんの精神科からの紹介)を事務局福留・松下先生・専攻医東山先生で完全アドリブにより再現いたしました。臨場感が伝わったでしょうか? 私としては、演じることで見えるもの・疑似体験することがこんなにもできるんだ!と発見できましたし、改めてロールプレイや演劇をつかうことの学習効果の高さを認識できました。

そして今回ははじめてグループディスカッションも取り入れることができました。学生さんから指導医まで5-6名に分かれて、癌終末期の在宅患者さんについて話合いました。指導医の先生が中心にファシリテートしてくださり、どのグループも熱心に取り組んでもらえてよかったです。(終了後アンケートで、もう少し話し合う時間が欲しかったとご意見いただきました。少人数だからこそ、深い話もできますよね。次回以降検討したいと思います。)

松下先生がアメリカで学ばれた行動科学に基づく、「感情の取り扱い」や「君は本当に患者の話を聞いているのか?(知識の押し付けではないのか?)」と言ったメッセージは深く参加者に響くものだったと思います。また、岡山県奈義町と中心に、先生が20年間かけて取り組んでこられた地域との関わりや取り組み、家庭医・総合診療医を育てるプログラムについても広くご講演いただきました。実際に奈義での様子を見てみたい!という方には、このような状況ではありますが随時見学にもご対

応いただけるそうです。

ポートフォリオ発表会に続いてトータル3時間半の長時間だったのですが、松下先生のセミナーそのものはあっという間に終わってしまったような、そんな楽しい時間でした。松下先生、ありがとうございました！

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、各医療機関でも多忙な状況が続いている中でしたが34名の皆さんにご参加いただきました。プログラムとしてもだいぶオンラインでのイベントに慣れることができたかな、と感じています。今回も1年生～5年生の医学生の皆さん、初期研修医の皆さんもご参加いただき、私たちが総合診療について知ってもらえること・興味をもってもらうことを嬉しく思っています。

今回は秋以降に第2回を考えています。ぜひみなさま奮ってご参加ください！お待ちしております。

★3 医学生サマーセミナーを開催

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

令和3年8月21日(土) 12:00～16:00にサマーセミナーを開催しました。今回の医学生サマーセミナーは、愛媛大学地域枠、自治医科大学、北海道大学、高知大学、岡山大学の医学生、総勢65名が参加しての開催でした。本来なら夏季は地域の医療現場での活動や懇親会を通しての交流が行われる予定でしたが、今年もWeb会議方式で代用させていただきました。

最初はランチョンセミナーとして、愛媛大学医学部附属病院総合診療科助長の菊池明日香先生から先生のお得意分野である「BPSモデルを学ぼう」ということでお話いただきました。人の健康問題の背景にある原因をBiopsychosocial modelでとらえていくことの重要性についてわかりやすく説明いただきました。これは夫婦や恋人同士の会話にも活用できるということでした。

次は、地域医療学講座助長の二宮大輔先生の司会による「地域枠と自治医大卒業生による初期研修医の現状報告」と題してご講演をいただきました。各先生が、それぞれの研修病院で充実した研修生活がおくれている様子や学生時代に何を準備しておけばいいかなど医学生にとって非常に参考になるお話をいただきました。

次の講演では、愛媛県立中央病院 総合診療部長の杉山 圭三先生を司会として愛媛県西条市と八幡浜市の行政官と病院の先生より地域の特徴と魅力などについて現状報告と将来の構想をお話いただきました。前者は工業中心の祭りの盛んな所、後者は柑橘農家の多く、九州と四国を結ぶ港のある所であり、それぞれ初期臨床研修の可能な総合病院を有する地域です。医学生にとって将来の派遣先になりうるそうです。

ワークショップはできませんでしたが、学生には「地域医療で、将来こんなことがしたい」をテーマに各自1分ほどで述べてもらいました。「地域に溶け込み、患者さんの身近な存在として活動したい」、「在宅医療が行いたい」、「終末期医療に携わりたい」、「病気全般を診れる医師になりたい」など

1. 日程

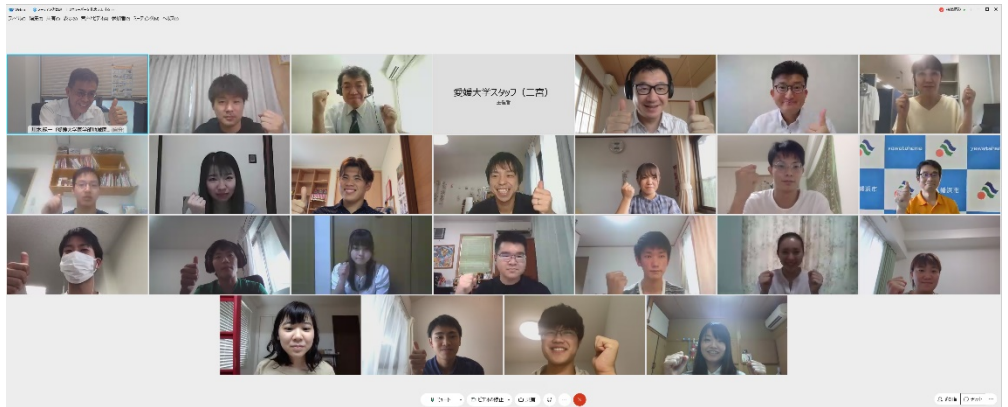
○日 時：令和3年8月21日(土) 12:15～16:00
 ○会 場：WEB開催 (Cisco Webex)
 ○スケジュール：

時間	内 容
12:00～	接続可能 ※8/18(水) Web招待メール送信予定
12:15～12:55 (40分)	ランチョンセミナー (各自昼食を食べながら) 「BPSモデルを学ぼう」 愛媛大学医学部附属病院総合診療科助長 菊池 明日香先生
12:55～13:00 (5分)	休 憩
13:00～13:05 (5分)	開会挨拶 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一先生
13:05～13:30 (25分)	初期研修医の現状報告 司会 愛媛大学医学部地域医療学講座助長 二宮 大輔先生 ・自治医大卒業生 ・愛媛大学地域枠卒業生
13:30～14:15 (45分)	地域医療の現状 行政と病院からの紹介 司会 愛媛県立中央病院総合診療部長 杉山 圭三先生 ・西条市・西条市立周桑病院・八幡浜市 (八幡浜市立総合病院)
14:15～15:20 (65分)	学生発表 「地域医療で、将来こんなことがしたい」 課題説明 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 (自治医科大学8期生) 川本 龍一先生
15:20～15:25 (5分)	休 憩
15:25～15:55 (30分)	特別講演 司会 愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター長 熊木 天児先生 「卒後のキャリアアップについて」 愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長 高田 清式先生
15:55～16:00 (5分)	閉会挨拶 愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長 高田 清式先生

プライマリ・ケアの理念に合った思いを多くの学生が抱いていました。

特別講演では、愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター長の熊木 天児先生を司会に愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長の高田 清式先生から「今後のキャリア・アップについて」と題して貴重なお話をいただきました。先生のこれまでの歩みを話された後、愛媛県内における初期研修と後期研修 19 領域の

現状、各プログラムの応募状況、愛媛大学地域枠や自治医大卒業生などのキャリア支援についてわかりやすくお話いただきました。義務後も生涯にわたってキャリアを積んでいける仕組みづくり、研究者や



公衆衛生に進む道も用意されていること、学生時代はへき地の医療機関に見学に行くことも将来の糧になるなど先生の経験を踏まえたお話が印象的でした。

★4 家庭医療倶楽部の活動

愛媛生協病院 家庭医療科 原 穂高

「家庭医療倶楽部 夜の部」について簡単に報告をしたいと思います。

レジデンシー・せとうちで2ヶ月に1回、ふりかえりの会を開催していることについては既に報告をいたしました。今回はもうすこし近い範囲の参加者で極秘裏に行っている催しを紹介します。言っちゃっていいのかな・・・

専門研修プログラムの基幹施設、愛媛生協病院では月に1回、金曜午後に専攻医、指導医が集まる機会「家庭医療倶楽部」を設けています。それがコロナやそれ以外の「業務多忙につき」という理由により毎回メンバーが集まることが困難な状況になっていました。そこで、時間外ならいいんじゃない？という産業医が聞いたら怒りそうな発想で月に1回平日夜19時から「家庭医療倶楽部 夜の部」がオンライン開催されることとなりました。参加者は専攻医、修了生、専門医、指導医、担当事務で平均して5名前後が参加しています。自宅から参加する者、医局の机から参加する者、どこから参加しているか分からない者、自由です。背後から子どもが話しかけてくることなんてザラです。各自の近況報告に始まり、最近の話題や持ち越している議題について話します。例えばリサーチのネタやワークショップ企画、リクルートの相談など。

夜の部を開催してよかった点は、じっくりと家庭医療のことを話し合う機会が得られること、お互いの状況やレジデンシーの運営について議論できる場が得られたことです。

一方で改善点は、当初期待したよりも女性医師の参加が少ないことです。時間設定の工夫も必要ですが、女性医師は帰宅しても担うことが多いということを示しているかもしれません。男性医師でしっかり家事している人もいますけどね。

もともと私たちのミーティングはリラックスできる場なので気が楽です。みなさんのところでも公式・非公式にオンラインミーティングがあると思いますが、気楽にできるのがいいですよ。

